

帰ってきたヨ!
新開地
おぼろば
ひろば
2024

芸能ナイト

疫病神

目黒大路

(多)ひす大黒座

疫病祓われ



主催/お問い合わせ

新開地アートひろば

旧名称:神戸アートビレッジセンター(KAVC)
(指定管理者:公益財団法人神戸市民文化振興財団)

〒652-0811

神戸市兵庫区新開地5-3-14

TEL: 078-512-5500

FAX: 078-512-5356

MAIL: event-info01@s-ah.jp

開館時間: 10:00~22:00 (火曜休館)

担当: 山本・大和・愛西

グラフィックデザイン: 神崎奈津子

アクセス

阪神・阪急・山陽・神鉄「新開地駅」J8
番出口より徒歩約5分/JR「神戸
駅」ピエラ神戸口より徒歩約10分/
神戸市営地下鉄「湊川公園駅」東改
札口より徒歩約15分

8月24日(土)

川村旭芳

耳なし芳一

筑前琵琶弾き語り
小泉八雲『怪談』より



江州音頭

中西レモン・辺高正

(江州音頭初代桜川唯丸節)

新開地舞踊歌劇団

芸能ナイト



新開地アートひろば



会場: 新開地アートひろば

8月24日(土) 14:00~/18:00~

芸能ナイト in新開地おばけひろば

要予約 **オトナも コドモも!**

日本の「芸能」は祭りなどのハレの場において、神に捧げた歌や舞などが起源といわれています。その後、伝統芸能から大衆芸能、民俗芸能など様々な発展を遂げています。

「芸能ナイトin新開地おばけひろば」では、舞踏家の目黒大路さん、筑前琵琶奏者の川村旭芳さん、民謡の唄い手の中西レモンさんをお招きし、一日限りのパフォーマンス公演を開催します。新開地おばけひろばで地蔵盆のハレの場をみんなで楽しみましょう!

アーティスト | 目黒大路、川村旭芳、中西レモン、
辺高正、新開地舞踊歌劇団

会場 | 新開地アートひろば2F・ホール
料金 | 大人1,000円(のびのびパスポートをお持ちのお連れのお子様は無料[要予約])こども500円(18歳以下)

定員 | 各回100名

※受付開始・開場はそれぞれ開演の30分前。上演時間は75分を予定。
※小学生以下のお子様は、保護者同伴でご観劇ください。

「芸能ナイトin新開地おばけひろば」関連ワークショップ

8月23日(金) 14:00~15:30

自分だけの妖怪に なってみよう!

要予約 **コドモ向け**

舞踏家の目黒大路さんによるダンスワークショップです。自分だけのオリジナルの妖怪を事前に考えてきてもらい、その妖怪をイメージして動きを作ってみます。

講師 | 目黒大路
料金 | 1,000円
場所 | 新開地アートひろば2F・ホール
対象 | 小学生1年生~6年生
定員 | 15名

「芸能ナイトin新開地おばけひろば」関連パフォーマンス

8月23日(金) 19:00~ (上演時間は20分程度)

疫病神

当日先着順 **オトナも コドモも!**

疫病神でございます。昨今では、お騒がせして、大変申し訳ございません。その代わりと云ってはなんですが、わたくし、疫病神が、皆様に被られます。わたくしが、皆様に襲いかかったとき、疫病神の小豆を全力で、わたくし目掛けて投げただけであれば、わたくし疫病神、もんどり打って退散致します。人類の敵、疫病を心ゆくまで、お誂ください。わたくしを被った時には、皆様に無病息災・不老長寿、そして安心安全が訪れます。

出演 | 目黒大路
料金 | 無料(投げ銭大歓迎!)
場所 | 新開地アートひろば1F・1room



「疫病神」
目黒大路
(ゑびす大黒座)

新型コロナウイルスが隆盛を極めていた頃、社会は、コロナは根絶してしかるべきという風潮でした。命を奪われることもあるウイルスですから、恐れるのは当然です。しかし、コロナよりも恐ろしかったのは、わが命を守るためなら、脅威は減ぼして当たり前という考えが、何の疑いも挟まずに急速に人心に蔓延していったこと、ひいては安心安全を旗印に、社会全体がそのような風潮になっていったことの方でした。

更に恐ろしいのは、その脅威がたとえ作られたものであっても、あるいは自らが招いたものであっても、社会は、容易にその風潮に染まってしまふだろうということです。現に私達は、歴史上何度もそれを繰り返してきましたし、今もまさにそれが行われています。

脅威は根絶して当たり前、そこに疑問の余地はないという社会の風潮への返答として、「疫病神」をつくりました。是非ご覧ください。



筑前琵琶弾き語り
小泉八雲『怪談』より
「耳なし芳一」
川村旭芳

赤間ヶ関の阿弥陀寺に住む盲目の芳一は、琵琶の名手でした。ある夏の夜、留守居の芳一の前に一人の武士が現れて、あるじの御前で平家物語の弾き語りをするようにと命じます。芳一は屋敷とおぼしき所へ連れて行かれ、大勢の貴人の前で「壇ノ浦」を演奏します。そして、幼帝が入水する場面に差し掛かると、すすり泣きの声が聞こえてくるのでした。

芳一は、その日から六日間、毎晩ひそかに此処へ来て平家物語を演奏するように命ぜられ、次の晩も侍に連れられて寺を抜け出します…。

お馴染みの怪談を、琵琶の弾き語りでお聴き頂きます。芳一が平家の亡霊の前で「壇ノ浦」を演奏する場面には、劇中劇のように琵琶曲「壇ノ浦」の一節が挿入されています。



「江州音頭」
中西レモン・辺高正
(江州音頭初代桜川
唯丸節)・新開地舞踊
歌劇団

旧近江国(現在の滋賀県)下に幕末から明治初年までには創出されていたとされる盆踊り口説・江州音頭(八日市祭文音頭)。山伏由来の祭文(さいもん)という節踊りの芸能が取り入れられることで独自の盆踊り唄として、また時には語りの芸能として、近畿地方を中心に今日まで広く楽しまれてきました。その広がりは近江商人や小屋掛けの興行が大きな役割を果たしたと考えられています。

明治の西南戦争の頃、人と物資が集まった神戸にもこの音頭を楽しむ人々があり、稽古場ができたという話もあります。今回は音頭との縁浅からぬこの神戸の地で、大阪北河内内で発展した桜川唯丸流の江州音頭を、辺高正、中西レモンをご紹介します。どのような物語が飛び出しますか。踊りの輪を共にしながらお楽しみいただけますと幸いです。

ご予約 | 電話(TEL:078-512-5500)または予約フォームからお申込みください。

「帰ってきたよ!新開地おばけひろば2024」
イベントホームページはこちら

